令和８年度小学校　算数

算数に関する調査の結果にみられる特徴と現状分析

◇正答率が全国平均と同程度か、やや上回っている問題が多い。
◆数と計算の領域では、「異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述する問題」「単位分数の個数に着目し、数直線上の１を表す目盛りを捉える問題」に課題が見られた。
◆変化と関係の領域では、「単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断する問題」に課題が見られた。
◆データの活用の領域では、「示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述する問題」に課題が見られた。

指導改善のポイント

本年度調査も実生活を想定した問題や、情報量の多い問題が出題された。問題場面を理解したり、問われていることが何なのかを理解したりする「読解力」を鍛えるためにも、普段の授業で扱う問題を工夫して慣れさせたい。

数と計算

〇7/3 と 7/4 の異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて説明できていない児童が多い。「通分を用いて数の大小を判断する」や「分数を小数で表して数の大小を判断する」など、分数の意味や表し方について理解するとともに、異分母の分数の大小関係について考察し、適切に表現できるようにしたい。
〇単位分数の個数に着目し、数直線上の１を表す目盛りを捉えることが難しい児童が多い。０から５/３の間が５等分されていることから、目盛りの一つ分の大きさが 1/3 を表していることを見いだすことが大切である。また、1/3 の三つ分が１であることを理解していることも必要である。

図　形

〇図形の性質や構成の仕方を考える際には、観察や構成などの活動を繰り返して図形の性質を見付けたり、図形の性質を確かめたりしたい。また、図形の計量の仕方について考える際には、図形の性質を基に考えることができるようにすることが大切である。さらに、面積や乗法と関連付けることで、図形の性質や構成の仕方、計量の仕方についての理解をより深めていく。

変化と関係

〇二つの数量の関係について考察する際は、テープ図や数直線などの図に表すことで、数量の関係を捉えることができるようにしたい。また、示された除法の式が（ペンギンの数）÷（面積）であることを読み取り、商が１㎡当たりのペンギンの数であることを捉え、その数が大きいほうが混んでいると判断できるようにしていく。

データの活用

〇目的に応じて必要なデータを集めて分類整理し、表やグラフに表したり、読み取ったりできるようにしたい。また、表やグラフに表す際、資料に落ちや重なりがないかを調べたり、集計に当たって誤りがないかを確かめたりできるようにしていく。



我孫子市マスコットキャラクター
手賀沼のうなきちさん